

令和2年度 阿波市総合教育会議 会議録

(1)会議 開催日

令和2年10月22日(木)

阿波市役所 3階 大会議室

午後1時30分から午後2時55分まで

(2)出席委員の氏名

市長	藤井 正助
教育長(委員)	高田 稔
教育長職務代理者	森 勝正
委員	重清 由充
委員	大戸井 美生
委員	庄野 憲二
委員	西渕 利江

(3)委員を除く、議場に出席した人の氏名

阿波市議会 議長	松村 幸治
阿波市議会副議長	笠井 一司
阿波市議会 文教厚生常任委員会 委員長	木村 松雄
副市長	町田 寿人
副市長	春木 尚登
教育部長	阿部 仁子
教育部次長	森北 博文
教育部次長	森友 邦明
学校教育課長	松村 栄治
学力向上推進コーディネーター	坂東 栄治
教育研究所研究員	井内 康之
社会教育課長	伊坂 典恭
学校給食センター所長	川人 啓二
企画総務部長	野崎 圭二
企画総務部次長	坂東 孝一
企画総務課主査	石川 学

(4)傍聴人

1名

坂東次長	<p>皆さんお揃いですので、会議を始めさせていただきます。本日の出席者につきましては、別紙2の席次表のとおりでございますので、紹介に変えさせていただきます。</p> <p>それでは、ただ今から『阿波市総合教育会議』を開催いたします。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>それでは始めに、「藤井市長」よりごあいさつを申し上げます。</p>
藤井市長	<p>開催にあたりまして、一言ごあいさつ申し上げます。</p> <p>本日は、令和2年度「阿波市総合教育会議」を開催しましたところ、阿波市議会より、松村議長様、笠井一司副議長様、木村文教厚生常任委員長様を始め、教育委員の皆様におかれましては、公私共に大変お忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>また、日頃より、皆様におかれましては、本市の行政、とりわけ、教育行政の推進に、格別のご理解とご協力を賜っておりますことに、この場をお借りして、厚くお礼を申し上げます。</p> <p>さて、現在、本市では、「安全・安心のまちづくり」、「活力あふれるまちづくり」、「子育て応援のまちづくり」を施策の中心に据えまして、「持続可能なまちづくり」に取り組んでいるところでございます。その中で教育分野では、子どもたちや市民の皆様の安全・安心を確保し、豊かな学びを育むため、学校教育施設また社会教育施設の充実強化に取り組んでいるところでありますが、昨今の人口減少問題や生活様式の多様化など、私たちの教育環境を取り巻く状況は大きく変化している状況でございます。</p> <p>加えまして、第3の国難と言われております「新型コロナウイルス感染症」への対応として、徳島県と連携を密にして、阿波市の宝である児童・生徒の皆さんの健康と学業を守るとともに、急速な情報社会の進展に対応するため、児童・生徒一人一台のタブレット型パソコン端末配備や、高速大容量ネットワークを一体的に整備する、GIGAスクール構想の実現など、新たな教育環境の整備を進めております。</p> <p>このように教育現場が新たな局面を迎えている中、「阿波市総合教育会議」では、より良い教育環境の推進に向け、市長と教育委員会の皆様方が、互いの役割・権限を尊重し合いながら、意見交換や、連携を重ねて、将来像や課題を共有し、全ての市民の皆様が「子どもは阿波市の将来を担う大切な宝」との共通認識を持つ上で、この「総合教育会議」の果たす役割は大変重要であると考えているところでございます。</p> <p>本日の総合教育会議では、阿波市教育大綱の基本方針の第4項目に掲</p>

<p>坂東次長</p>	<p>げられています「情報教育の充実」の部分にあたる、GIGA スクール構想の実現に向けて、現在の状況や、今後の取組について、委員の皆様の意見をいただきたいと考えております。教育委員の皆様におかれましては、それぞれのお立場で忌憚のないご意見・ご提言をいただきますよう、心からお願い申し上げます、誠に簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いたします。</p>
<p>高田教育長</p>	<p>ありがとうございます。続きまして、「高田教育長」よりごあいさつを申し上げます。</p> <p>本日は、松村議長様・笠井副議長様、木村文教厚生常任委員長様のご臨席のもと、阿波市総合教育会議が開催されますことをたいへんうれしく思っています。</p> <p>最初に、この場をお借りしまして、市長、議会の皆様へ一言お礼を申し上げます。市内各学校の施設・整備につきましては、4月に林小学校プールの大規模改修が終了し、8月末には市場小学校体育館大規模改修が終了いたしました。続いて、林、伊沢、久勝、八幡、市場、大俣小学校と、土成中学校の屋外トイレの新築工事が進められております。また、大俣公民館の改築工事も行われております。</p>
	<p>今日のテーマであるギガスクール構想による校内通信ネットワーク整備については、2773 台のパソコン端末をはじめ、貸し出し用モバイルルーターの整備を進めているところでございます。</p> <p>コロナウイルス感染症関連については、非接触体温計、またパルスオキシメータ、フェイスシールドの整備、さらには、小中学校と社会教育・体育施設の手洗い場の一部を自動水栓にする改修工事が行われております。</p> <p>このように教育を取り巻く環境は、ハード・ソフト面をはじめ、コロナウイルス感染症対策についても、常に、子どもたちや学校の実態や実情をご理解いただき、手厚いご支援をいただき、心よりお礼申し上げます。</p> <p>これらすべては、市長並びに議会の皆様方のご理解・ご支援のたまものであると深く感謝申し上げます。ありがとうございます。</p> <p>さて、本市の教育行政は、市の最上位計画である第2次阿波市総合計画をはじめ、平成 27 年に策定した教育大綱、さらには、教育振興計画に基づき進められております。</p> <p>そして、この総合教育会議では、市長と教育委員会が、十分な意思疎</p>

	<p>通を図り、地域の課題やあるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政を推進するために行う場となっております。</p> <p>「子育てするなら阿波市」「未来の阿波市を担う子どもたちの育成」のため、教育行政の現状や方針を確認し、方向性を共有していく、協議・調整が重要であると考えております。</p> <p>今回は、GIGA スクール構想の実現に向け、今後の学校教育のあり方について、話し合いがもたれます。</p> <p>皆様方には、これまでの行政施策を踏まえ、今後、GIGA スクール構想について期待することなど、ご意見をいただけたらと思っています。</p> <p>予想される効果とともに課題もたくさんあると思いますが、これからの取組が、より効果的なものになるよう、共通理解することができたらと考えております。</p> <p>どうぞよろしくお願いいたします。</p>
坂東次長	<p>ありがとうございました。それでは、議題に入りたいと思います。議事の進行は主催者であります藤井市長にお願いしたいと思います。</p> <p>市長、よろしくお願いいたします。</p>
藤井市長	<p>それでは、早速ですが、議題1「GIGA スクール構想の実現に向けて」でございます。事務局から説明をお願いいたします。</p>
井内教育研究所 所研究員	<p>それでは、事務局から説明させていただきます。</p> <p>①これから「New School life with a Computer」と題して、これからパソコンが導入され、一人一台使える環境になると、学校のICT教育はどうなっていくのかということについて、お話をさせていただこうと思います。よろしくお願いいたします</p> <p>②まず、文部科学省が中心となってすすめている、GIGA スクール構想について、説明します。</p> <p>③GIGA スクール構想は、「誰一人取り残すことなく、子どもたち一人一人に個別最適化され、創造性を育む教育 ICT 環境の実現」を目指しています。</p> <p>④最近、Society5.0という言葉をよく聞くようになりましたが、このような社会を生きぬく子どもたちに対して、「誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学び」を実現するために、ICT を基盤とした先端技術や教育ビッグデータの効果的な活用をしていくことに大きな可能性を見いだしています。</p>

⑤OECD 生徒の学習到達度調査によると、日本の学校における ICT 利活用は、世界から後塵を拝している状況がわかります。

1 週間のうち、教室の授業でデジタル機器を利用する時間は、国語、数学、理科において、OECD 諸国の 2 分の 1 から 3 分の 1 程度の利用時間に、とどまっています。

⑥また、子どもの学校外での ICT 使用は、「コンピュータを使って宿題をする」、「学校の勉強のために、インターネット上のサイトを見る」については、OECD の平均を大きく下回っています。「ネット上でチャットをする」「一人用ゲームで遊ぶ」は、OECD の平均を上回っています。このことから、日本では、学校外で、学習面において、ICT をほとんど利用していない状況がわかります。

⑦このような全国的な状況において、一人一台のパソコンが導入されると、これまでの、週あたり、数時間程度の利用から、1 日数時間程度の利用に大きく増えることが考えられます。それは、今までならパソコンを使うのに、他の学級が使っていないか確認し、それから、コンピュータ室へ移動して利用していましたが、確認や移動の手間が必要なくなるためです。

また、利用するソフトも、より使いやすいものを導入することで、ソフトを利用することへのハードルが下がり、時間や場所の制約も受けにくくなることで、これまでに増して、利用の機会が増えるとともに、利用の方法が大きく変わってくるものが考えられます。

⑧一人一台端末になれば、一人一人の反応を踏まえた双方向型の一斉授業が可能になったり、その子の学習状況に応じた個別学習が可能になったり、各自の考えを即時に共有し、多様な意見にも即時に触れられるようになります。

⑨GIGA スクール構想の実現に向けた環境整備としては、「構内通信ネットワークの整備」と「端末の整備」があります。「構内通信ネットワークの整備」については、現在、阿波市の学校においても計画的に整備が進められている最中です。

「端末の整備」については、ウインドウズの端末が導入されることが決まっています。

⑩各教科において学びを深める方法については、このようなものがあります。

⑪まずは、文部科学省が作成している、「学校における一人一台端末環境」についての動画がありますので、ごらんください。

阿波市においては、端末で利用できる授業支援ソフトが導入される予

定です。「SKYMENU class」「メタモジ」「ロイロノート・スクール」などがあります。ドリルソフトも導入される予定です。「eboard」「ジヤストスマイルドリル」などがあり、インターネットができる環境があれば利用できるのですが、新型コロナウイルスなどの感染症拡大防止のために臨時休業になった場合や不登校の児童生徒の学習にも有効です。これらの「授業支援ソフト」・「ドリルソフト」とも、現在、現場の意見を聞いて検討しています。「Microsoft 365 Education GIGA Promo」が導入されます。

⑫授業支援ソフトを使った事例を2つ動画で紹介します。

1つは、昨年度、県外視察へ行った、京都教育大学附属桃山小学校の事例です。主に授業支援ソフトの「ロイロノート」を使用していました。まず自分の考えをノートに書き出し、並べ替え、それをまとめたり、シンキングツールを用いたりして思考力を育てていました。「ロイロノート」以外にも地図アプリを利用していました。その様子をご覧ください。

もう1つは、大分豊府中学校の事例です。主に「マナーナビケーション」、プレゼンテーションアプリ「kyenote」を使用しています。リアルタイムで全生徒の意見を共有し、友達と比較するなど、ICTを効果的に授業に取り入れ、学習をすすめています。ご覧ください。

⑬次は、さきほど紹介しました「Microsoft 365 Education GIGA Promo」について説明いたします。

⑭GIGA Promoには、なじみのある、ワード、エクセル、パワーポイント、最近よく聞くようになったチームズなど多くのアプリが入っており、使えるようになっています。

⑮その中の1つである、Teamsとは、テレビ会議やチャットなどができる、コミュニケーションツールです。日常的に、教師と児童生徒とのコミュニケーションツールとして利用できます。ZOOMのようにオンライン学習にも使えます。

⑯また、フォームズという、アンケートができるアプリもあり、これを利用して、小テストをすることもできます。

⑰その他、OneDriveというアプリもあり、インターネット上に、文書や写真などを保存することもできます。

⑱Microsoft「Teams」や「Forms」などを活用している、足立学園中学校の事例の動画があります。「Teams」では、コミュニケーション促進のことを、「Forms」では、小テストのことを紹介しています。その様子をご覧ください。

⑲今の段階では、Microsoft 365 Education GIGA Promoは入っていないため、Teamsのテレビ会議システムは使っていませんが、阿波市では

別の、テレビ会議システムである「ZOOM」を活用した取組を行っています。このことにより、Teams が導入されれば、スムーズに利用できるのではないかと考えています。

その ZOOM についての取組事例を紹介いたします。

○このたびの新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための臨時休業期間中には、朝の会や帰りの会に ZOOM を使って行っていた学校があります。学校と各家庭をつなぎ、健康観察などをしました。その時の様子をごらんください

○また、学校が始まってからも、音楽の時間に、密の状態をさけるため、4年生と5年生が、音楽室と教室とに別れ、それぞれをつなぎ、曲の紹介を行い、意見交換をしました。その様子をごらんください。

○ふだんの朝会や終業式、他校との交流を、ZOOM で行った様子を、各学校のホームページで紹介しています。

○校長会においても ZOOM を活用し、教育委員会と各学校をつなぎ、オンライン会議を行いました。

⑳各学校のホームページから抜粋した、終業式の様子です。校長先生が、賞状などを渡し、その様子を各教室で、子どもたちは見えています。

㉑支援学級の子どもたちが、他校の子と自己紹介などをして交流する様子や朝会において、職員室から校長先生などがお話をし、教室で子どもたちが聞いている様子です。機器の設置など、適宜、情報担当の先生が、サポートを行っています。

㉒8月の校長会では、教育委員会と各小・中学校をつなぎ、ZOOM を活用して、オンライン会議を行いました。教育長、次長、課長からの連絡を行いました。

㉓ICT 教育を管理職に率先して進めていただかなければならない、ということで、次長が、各校の校長を児童生徒に見立て、デジタル教科書を使って、模擬授業を行いました。

㉔学校現場における ICT 活用に向けた取組としては、令和2年度以降順次実施される「新学習指導要領」においては、「情報活用能力」を言語能力と同様に、「学習の基盤となる資質・能力」と位置づけ、育成を図るとともに、「学校の ICT 環境整備」と「ICT を活用した学習活動の充実」が明記されています。

学校の ICT 活用においては、環境が整えば、すぐに実践できるものとして、教科書にある QR コードを読み取ってのコンテンツ活用や、英語やNHK 動画の視聴、教師の日常の校務での使用があります。

優良事例の共有を行いながら、進めていくものとしては、プログラミ

	<p>ング教育や、アクティブラーニングの実践等があります。ICT の特性を生かした新たな学びをしていくものとしては、「STEAM 教育」や「様々な先端技術の活用」があります。これらに関しては、これからの内容であり、研究をすすめていく必要があります。</p> <p>⑤最後まとめになりますが、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもから大人までパソコンが生活の必需品となる日がもうそこまで来ています。 ・STEAM 教育、プログラミング教育はこれからの時代を創造していくために、重要な教育です。 ・10年前であれば、チョーク1本で授業をすすめることは可能でした。しかし、これからの10年で、大きく社会構造や雇用環境は変化し、今の児童生徒たちが社会に出て行く頃には、パソコンなどの ICT 機器を使いこなすことが必須の世の中になっていると予想されます。 <p>そのため、今学校においては、教師は、チョークとパソコンの両方を使いこなし、新しい生活様式の一道具として、授業や生活の中で効果的にパソコンを活用していくことが求められているのだと思います。</p> <p>以上で、発表を終わらせていただきます。</p> <p>ありがとうございました。</p>
藤井市長	<p>ただ今、事務局から「GIGA スクール構想の実現に向けて」の資料に基づき説明がございました。</p> <p>この件についてご質問等をいただきたいと思います。</p> <p>重清委員、お願いいたします。</p>
重清委員	<p>パソコンが導入された際の、学校現場での研修についてどのようにお考えでしょうか。</p>
藤井市長	<p>重清委員から質問がありましたが、事務局説明をお願いします。</p>
井内教育研究所研究員	<p>県における教員研修については、各学校の担当者を対象に、12月中旬から下旬に行われる予定です。</p> <p>阿波市においても、端末導入前になりますが、12月に、アエルワにおいて、市内の小中学校教員を対象に講演会を予定しています。「文科省 ICT 活用教育アドバイザー」をお迎えし、「GIGA スクールで気になりはじめた学校教育の転換 ～子ども達の未来に責任を持つために～」と題し</p>

藤井市長	<p>てお話をさせていただきます。</p> <p>また、端末導入後、2月から3月にかけて、業者によるパソコン端末とソフトに関する研修を、各校において行う予定です。</p> <p>セキュリティーポリシーに関する研修は、市役所において合同で2回程度行う予定です。</p> <p>来年度の4月当初から、学校の希望日を聞いて、ICT 支援員が学校へ行き、ソフトの研修を行うことも検討しています。以上です。</p> <p>庄野委員、お願いいたします。</p>
庄野委員	<p>GIGA スクール構想や全国や阿波市の取組について、丁寧に説明していただきありがとうございます。1 点質問させてください。学年にあった到達目標について、今後どうしていくのでしょうか。</p>
井内教育研究所研究員	<p>PowerPoint の資料がありますので、スクリーンをご覧ください。</p> <p>このような文部科学省から出されている、小中学校段階において身に付ける情報活用能力の内容が記された一覧表を各学校に示し、活用してもらうことを考えています。</p> <p>一覧表は、ステップ1の小学校低学年から、ステップ5の高等学校修了段階までで構成され、それぞれは、「基本的な操作」「問題解決・探究における情報活用」「プログラミング」「情報モラル・情報セキュリティ」の4つに分類されています。</p> <p>例えば、「基本的な操作」のステップ1の小学校1・2年生は、「コンピュータの起動や終了、写真撮影などの基本操作」などを学びます。</p> <p>ステップ2の小学校3・4年生は、「キーボードなどによる文字の正しい入力方法」などについて、ステップ3の小学校5・6年生は、「電子ファイルのフォルダ管理」などについて、ステップ4の中学校では各学年に応じて、「クラウドを用いた協働作業」などについて学ぶことになっています。</p> <p>また、このような授業場面の例もあるので、これらを参考にして公開授業などを通して教職員の研修を行うことも考えています。以上です。</p>
藤井市長	<p>大戸井委員、お願いいたします。</p>
大戸井委員	<p>1 点質問させていただきます。学校外での ICT 利用について、課題や今後の見通しを、教えていただけますでしょうか。</p>

井内教育研究所研究員	<p>もしまた、学校が臨時休業になった場合の対応としては、パソコン端末を自宅に持ち帰らせての活用を考えています。自宅にインターネット環境が整っていない家庭に対しては、モバイルルーターを貸与し、インターネット環境作りの支援をします。</p> <p>活用場面としては、文部科学省や徳島県総合教育センターのホームページ内にある学習動画の視聴、インターネットで利用可能なドリルの使用、テレビ会議ができるアプリを利用してのオンライン学習、アンケートができるアプリを利用して健康調査などが考えられます。</p> <p>課題としては、パソコンを使う事による目の疲れなど健康面への影響、チャットなどを安心して利用できるよう、さらに情報モラル教育を充実させていくことがあげられます。</p> <p>また、端末の導入台数が多いので故障した時の対応や、フィルターを利用した動画サイトなどへのアクセス制限があります。教育に有効なNHKなどの動画サイトが制限され見られないと困りますが、有害なサイトへ簡単に繋がってしまってもいけません。その兼ね合いについて研究を進めていく必要があります。</p> <p>情報セキュリティについて、これまでも取り組んできたことですが、例えば「パスワードを他人に言わない」「メールのリンクやファイルはすぐには開かない」「パソコンを常に最新の状態にして弱点をなくす」などのことについて、今一度研修を行い、情報資産の適切な管理ができるよう努めていきます。</p> <p>これらのことについて今後計画的に取り組み、いつでもすべての児童生徒や先生方が安心して学習や生活に効果的に活用できる環境づくりを進めていきます。以上です。</p>
藤井市長	<p>ありがとうございました。他にございませんか。</p> <p>ないようですので、お一人ずつ、ご意見・ご感想をいただきたいと思います。</p> <p>まず、最初に森教育長職務代理者からお願いいたします。</p>
森教育長職務代理	<p>本日のテーマ「GIGA スクール構想の実現に向けて」について、私の思っていることを、大雑把でまとまりのない内容ですが、述べさせていただきたいと思います。</p> <p>最初に「GIGA スクール構想」って何かを考えたときに、今発表があった中にもありましたけれども、「誰一人取り残すことなく、子どもたち</p>

一人一人に個別最適化され、創造性を育む教育 ICT 環境の実現」を目指しているということですが、この内容の最後の部分、つまり、「教育 ICT 環境の実現」のところだけ見ると、国が持ち出したこともあり、国が予算を確保し、全国的にパソコンのハード面を充実させていくことだけを考えたら、資金さえあればハード面の充実は比較的楽にできるのではないかと思います。

しかし、「誰一人取り残すことなく」とあり「子どもたち一人一人に個別最適化され」これもまた難しいかなと思います。さらに「創造性を育む」という言葉も付いております。これらのことにつきましては、三十数年間小学校教育にかかわってきた私の経験から考えると、何という難しい、ゴールははるか彼方にある大きな課題となって、これから小学校教育に携わる者にとっては、重荷になるのではないかとさえ感じています。ですから、今できることからステップ・バイ・ステップで一步一步成果を積み上げていくことが重要になってくると思っています。

さて、世界的に大流行してしまいました新型コロナウイルスへの対応の中で、登校せずにリモートで自宅にしながら授業が受けられる様子が先進諸国から紹介がありました。でも、日本ではできていない現実がありました。あれっ、日本ってこんなに ICT 環境やその活用に関して後れを取っていたのかと気づかされた方も多いのではないのでしょうか。でも全国的に登校不可能な状況になるなんて考えてもみなかった状況下では致し方なかったとも思います。ICT 環境は、どんな目的で、どう使用するかが大事なことであって、使わなかったり使い方を誤れば宝の持ち腐れになったりしてしまうのではないかと思います。

ところで、皆様もご承知のように、最近日本のスーパーコンピューター「富嶽」はスーパーコンピューター「京」に続いて演算速度世界一を達成したというニュースが流れていました。そして、新たな試みとして新型コロナウイルスの飛沫の拡散状況について、明らかにされ、新型コロナへの感染予防の側面に大きく寄与しております。考えてみれば、パソコンのこのような活用は、今まであまり公にはなっていませんでしたけれども、ただ、演算スピードが速い日本の技術は世界の諸国と比較しても決して劣っているとは思ってもみませんでした。でも、もっと活用できることはたくさんあったのではないかと思います。生活に活かせるように活用できなければ、宝の持ち腐れ状態になり、「世界で2位じゃダメなんですか」と言われるようなことになります。

これらのことを、これから進めていく「GIGA スクール構想」の中で考えてみました。

まず、今までの研究成果を取り込みながらハード面の充実を急ぐ。同時に、教育委員会は、研修等について待ったなしでサポート体制を充実させる。そして構想の実現への道筋を示すことが重要になってくるのではないかと考えております。

GIGA スクール構想の実現に向けて、阿波市の教員の取組に大いに期待しています。阿波市では今まで市長さん、議員の皆さん他、関係の皆さんの教育に対するご理解とご尽力のおかげで、周辺の市町村に決して遅れることなくタブレットパソコンを導入し、その成果は学校訪問の時にを見せていただきましたが、特に小学校では様々な学習で着実に実践に結びついてきております。また、講演会などの研修も積極的に開催してきています。

今年の学校訪問でも、私は一部の学校しか訪問できていませんけれども、市場小学校で二つの会場を結んでの授業を見せていただきました。これは学校と家庭を結んで、リモートで行う授業を想定した取組に結びつくものだと思います。この取組には、今発表をした井内先生が専門の知識を生かし、サポートできているように感じました。そして、坂東先生も長い経験と知識をフルに活用して協力していたように思いました。このような取組を積み重ねていくことで、目指す「GIGA スクール構想」に近づいていくのではないかと感じました。

しかしながら、この度の「GIGA スクール構想の実現に向けて」、先ほどの発表にありましたけれども、様々な困難が予想されます。それは、家庭でのリモート学習までを想定していることで、

- ・一人も取り残さないための体制づくりをどのようにするか。
- ・どのような手立てで、子どもたちの創造性を高めていくのか。
- ・冒頭で述べましたが、何が課題か。課題解決のために、何をどのように学ばせるのか。を見誤ると、室の持ち腐れになってしまうような気がします。

- ・リモート学習に伴う回線の使用料・故障・期待しないサイトへの接続の問題。

- ・数年後にはバージョンアップしなければならない予算の問題。

等々、考えていけばきりがないくらい問題があります。

今取り組もうとしていることは、第4次産業革命あるいは SOCIETY5.0 といわれる変革期を迎えている中で、行政も教育現場も覚悟を持って取り組まなければならないのではないかと考えております。

それでも、大きな変革期を乗り切ることによって、学校での普段の授業でも、登校できない状況下でも様々な学習が効果的に行えるような

<p>藤井市長</p>	<p>り、学力の向上が進み、また、正しいコンピューターリテラシーが育って来ると思われます。</p> <p>このような環境で、子どもたちは成長する中で、さらなる学力の向上を果たし、将来的には、ICT 関連会社の起業、また、サテライトオフィスの誘致や関連企業への就職、更には、ICT の日常生活の中での活用による生活の質の向上等に結び付き、豊かで効率的な生活を楽しめるのではないのでしょうか。</p> <p>以上で終わります。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>重清委員、お願いいたします。</p>
<p>重清委員</p>	<p>只今、森教育長職務代理からもお話がありましたように新型コロナウイルスによる休校で、授業時間が減り、学校現場は現在も「三密」を避けての授業を強いられています。</p> <p>毎年行われております学校訪問もありませんでしたが、先日県教委の学校訪問時に阿波市教育委員会より、教育長・教育部次長・学力向上推進コーディネーター、ICT 支援員と共に多勢を避けるため、委員が地元の小学校・中学校の授業参観のみに伺いました。</p> <p>どの学校も換気が徹底されており、風通しよく授業をされていました。フィジカル・ディスタンス（身体的距離）は、1クラス 25 名以上になると、距離を保つのは難しいように感じました。一番多いクラスで 35 名、本当にきびしい感じを受けましたが、マスクを徹底されておりました。低学年におけるマスクは、大変なようですが、できるだけ心掛けておられました。手洗場の泡ソープもしっかり設置され、教室の入口に消毒液を置くなど、子ども達には習慣づけができていたということでした。</p> <p>阿波市は ICT 活用にも積極的で、特に小学校は、各学校に 1 クラス分しかないタブレットの活用も申し出が多く、使用したい日時を職員室の予定黒板に書き込み、使い合いをしている状況です。</p> <p>先日の授業参観でも、タブレットを使用する授業が 2 学年あったため、1 人 1 台当たらない学年もあり、交替しながら自分の意見を書き、それを大型テレビの画面にアップし、みんなの意見を全員が確認できる場面もあり、互いの意見を一気に知ることができたり、他の学年では、自分の意見をホワイトボードに書き、先生の方へ掲げる場面もありました。これが来年度には全学年、全クラスで 1 人 1 台タブレットを使って</p>

できるようになるのだということがわかりました。デジタル教科書を活用し、子ども達も集中力を高め、コロナ禍で発表の機会を減らし、ICT機器によりみんなの意見を知るなど、いろいろな工夫をしながら、活発に授業が進められていました。

学校では、全員の先生が校務支援ソフトを使用され、通知表・要録・成績処理が時短になり、大変助かるとおっしゃられています。機器の接続方法もすべての先生が把握されているようです。

現在は、タブレットの準備と片付けに20分ほどかかるということで、来年度から資料の7ページにありますように、タブレットの利用時間が大きく増え、利用方法もソフトが変わることで大きく変わり、1人1台の端末環境が8ページにありますように、個別学習にも一斉学習にも深みを増すこととなります。

最初のうちは、これまでと中身が大きく変わることによる不安があるという先生もいらっしゃいます。

また、現在3年生以上の子どもはパソコン操作でキーボードを使うことができますが、初めて使う機器がタブレットという子どもにとっては、キーボードを使う機会がなくなり、キーボードを使えない子どもが増えるのではと、危惧される先生もおられます。というのは、専用のペンを使っても、20字程度しか書くことができません。キーボードで打ち込むと、まとまった文章が書けます。学年が上がるにつれ、まとまった文章を書く時には、キーボードが打てることも大切なのは、とおっしゃる先生もいらっしゃいました。

この件については、先に庄野先生が質問された、学年にあった到達目標についてのお答えで、今後も3・4年生でキーボードによる文字の正しい入力方法を学べるということがわかりましたので、よかったです。

それと、タブレットの保管ですが、コロナ禍で教室いっぱい距離をとりながらの授業ですので、先生にとって指導しやすい、子ども達にとって学びやすい、使い勝手のよいように考えていただきたいというご意見もありました。

阿波市が導入予定の授業支援ソフトは、学習者をリアルタイムで把握できるモニタリング機能、授業の理解度を確認するテスト、アンケート機能等があり、ドリルソフトでは、児童1人1人に適した問題を出しわけの機能を搭載、子どもが自分のペースでドリル学習に取り組めるのに加え、クラス全体のつまずきを可視化し、個別指導を本当に必要としている子どもを把握できるようにサポートする等、効果的・効率的な学習環境を実現するもので、先生方も大きな期待を持っておられます。

<p>藤井市長</p>	<p>子どもが1人1台タブレットを持ち、学習することにより、学習意欲も高まり、自分のものとして、どんどん使用できるような指導が必要になってくるので、責任を持って指導するためにも有効な活用方法をしっかり話し合い検討していくことが大切です。</p> <p>ですが、1人1台端末は、来年の2月末ないし3月にならないと届きません。届いたものを使って、ソフトを導入し、どの場面でどのアプリを利用するかなど、授業を組み立てていく上で、使い方を把握することを考えますと、ICTへ苦手意識がある先生は多いと思いますので、大変だと思います。小学校と中学校の先生のICTに対する考え方、意識にも違いがあります。</p> <p>何でも始めるのは大変ですが、使いこなせるようになれば、これほど便利で一人一人の子どもの状況把握に役立つものはないと思います。</p> <p>これから生きていく子どもたちにとって、ICT機器が必須な世の中です。阿波市は教育環境においてもICT機器や英語教育においても、早くから力を入れ厚く支援していただいております。</p> <p>今年度中に1人1台端末が届けられます。せっかく届けていただいた機器を、授業で効果的・効率的に使っていただけるように、先生方に頑張ってもらいたいと思います。</p> <p>お一人で悩むことなく、不安な点、疑問な点は、しっかりプロの先生に聞いていただき、学校現場の研修についてのお答えにもありましたように、2月～3月にかけて、業者によるパソコン端末とソフトに関する研修や4月～7月くらいにかけてICT支援員により、ソフトの研修を各学校において行ってくれますので、安心感を持って、焦らず使っていただきたいと思います。</p> <p>国からいただく機器も消耗品です。今後とも阿波市の子ども達の学力向上のためにも、教育へのご支援を引き続きお願いしたいと思います。</p> <p>私の方からは以上です、ありがとうございました。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして大戸井委員さん、お願いします</p>
<p>大戸井委員</p>	<p>まとめをお話しさせていただきます。</p> <p>「GIGAスクール構想の実現に向けて」非常に興味深く拝見させていただきました。今や仕事においても、プライベートにおいても、スマートフォンをはじめ、パソコンのない生活は考えられない状況です。例えば、農業や福祉、介護の世界も例外ではありません。私は、このことを</p>

藤井市長	<p>踏まえたうえで、まとめにもありましたように一つ、生活の必需品としてのパソコン</p> <p>一つ、重要な教育として行うことの一つの道具としてのパソコン</p> <p>を大きな柱として、そこにある当たり前のパソコンやパソコン教育の環境を一気に進めていただくことに期待したいと思っております。しかしながら、決してパソコンを習うために新たな塾に通うなどというようなことがあってはいけないということも併せて希望いたします。おもしろい、楽しい、パソコン教育が我が阿波市で行われること、そして、おもしろい、楽しい、ことが自然と自発的に向上していく重要な要素であることも事実ですので、このこともぜひ期待して今後の GIGA スクール構想を見てまいりたいと思っております。</p> <p>以上でございます。</p>
庄野委員	<p>ありがとうございます。続いて庄野委員さん。</p> <p>今年もあと2か月で終わりにになりますが、今年ほど色々な意味で変化の激しい年はなかったように思います。</p> <p>中国から世界に広まった新型コロナウイルスは、各国でたくさんの犠牲者を出し、今も広がりつつあります。生活様式も変化しました。</p> <p>その影響を受けて、学校が全国一斉休校になり、そのことで、森委員もおっしゃるように、他国に比べて日本のオンライン教育の遅れが浮き彫りになりました。</p> <p>教育の充実は、一人一人の学力向上や個を伸ばすだけでなく、全体としての国力を高める意味もあるので、政府も少しあせったようにも見えます。</p> <p>そのことで2018年度に策定された教育のICT化に向けた「環境整備5か年計画」が2年前倒しになって、一人一台端末が配置されることや高速大容量の通信ネットワークが整備されつつあります。</p> <p>先ほど、プレゼンで、全国や阿波市の現状を丁寧に説明してくださりよくわかりましたが、そのなかにもあったように、それまでのOECDやPISAの調査で、具体的に日本の中学校でのICTの活用率が参加48國中47位と非常に低く、対照的に中学生がオンラインゲームで遊ぶ割合は1位だったことが結果に出ているので、GIGAスクール構想が少しでもはやまることは喜ばしいことだと思います。</p> <p>GIGAスクール構想については、9月議会でも取り上げられていました。</p>

<p>藤井市長</p>	<p>ただ、心配なことは、国が急きょ推し進めたことで、重清委員の研修についての質問にもありましたが、学校現場の指導体制が十分に整うのだろうかということです。</p> <p>GIGA スクール構想は「ハード」・「ソフト」・「指導体制」三位一体の改革といわれていますが、「ハード」面が整備できても「ソフト」面や「指導体制」は間に合うのかなと心配しています。</p> <p>国の5か年計画のなかに目標として示されている ICT 支援員も令和4年度までに4校に1人配置することなどはとても無理な気がします。</p> <p>その点で、阿波市はソフト面でデジタル教科書や教材などのデジタルコンテンツは整備されているものも多くあり、費用もかけてきてきています。</p> <p>また、ICT 支援員や学力向上指導員のように人的な支援もしてくれています。</p> <p>森委員や重清委員もおっしゃっていましたが、私たち教育委員は毎年市内小中学校の学校訪問に行かせてもらっています。</p> <p>今年は新型コロナの影響で、私は土成町内の小中学校だけ授業参観させてもらいましたが、授業の中で、ICT を効果的に活用している場面がいくつもありました。</p> <p>個人の差はあれ、他の市町村と比べても阿波市の ICT の活用率は高いと思います。</p> <p>昨年までにもよくいわれていた、主体的・対話的な深い学び「アクティブラーニング」を充実していくうえでもプレゼンの説明にもあったように、ICT の活用は効果が高いといわれています。</p> <p>一人一台端末になるということは、学習におけるツールとしての重要性が高くなると同時に、学習度合いやタブレットの活動度合いも一人一人蓄積されていくので、個に応じた指導も深まることに比例して、その活動度合いや効果が先生の指導力により影響されるようになりそうです。</p> <p>今後、どの先生も必要なときに授業のなかで効果的に使いこなせるようになってくだされば、教育効果もより一層あがっていくと思います。</p> <p>オンライン学習への対応、英語教育、プログラミング教育など、先生への負担は増す一方ですが、阿波市は引き続き支援体制を充実させてくださると思うので、先生方には子どもたちのために、より一層の研修を深めて、充実した教育を実践してほしいと思います。以上です。</p> <p>ありがとうございました。続いて西淵委員さん。</p>
-------------	---

<p>西渕委員</p>	<p>西渕です。よろしくお願いします。</p> <p>只今ご説明いただき、ICT 機器の理想的な授業での活用方法や、GIGA スクール構想の実現に向けて、阿波市としての思いや取組を理解することができました。</p> <p>他の委員さんにご意見が重なるところも多くありますが、自分なりの意見を述べさせていただきます。</p> <p>これまでは、保護者の ICT 教育に関する意見として「ICT 機器を活用して、子どもの興味を引く授業をしてほしい」や「将来困らないようにパソコンを使えればよい」など大まかな意見が多かったと思いますが、今年の臨時休校時に、ICT 教育への考え方は大きく変化したと思います。</p> <p>一人一台のパソコンを持つことや、オンライン授業のことなど、「子どもたちの学びを止めないでほしい」という思いから、保護者もそれぞれの時代に合った学び方を考える機会となりました。</p> <p>GIGA スクール構想についても、これからの時代を生きていく子どもたちにとって、理想的な学びの取組であるとの認識が高まっていると思います。</p> <p>GIGA スクール構想では、個々の能力を伸ばしたり、学びを深めたりすることも期待していますが、特に私が可能性を感じているは、コロナ禍で注目となっている在宅オンライン授業です。在宅オンライン授業のシステムが完備できれば、休校時だけでなく、不登校や長期療養で学校に通えない場合など、学校には通えないけど学習がしたいという子どもたちに有効に活用できる時がくるのではないのでしょうか。不登校の子どもたちには教室の雰囲気を感じることができ、慣れれば双方向授業へと進めていくことができるなど、不登校の対応方法が広がると考えます。</p> <p>庄野委員さんのお話にもありましたが、コロナ禍により、休校時に学びを保障するため、家庭での学習ができるよう環境を整備することは急務となりました。本来、2023 年度の達成目標であった端末の設備や通信環境の整備等を前倒しして、今年度中に実施することになったことで、心配されるのは現場の先生への負担です。</p> <p>今年は、子どもたちの健康面への配慮や教室の衛生など、先生方は例年にはない負担があります。また、今年度より新学習指導要領に沿った授業がスタートしているので、小学校での外国語学習やプログラミング教育も進めていかなければいけません。</p> <p>端末導入後、先生や子どもたちが機器を使いこなせるようになれば、指導の管理や校務の負担を大きく軽減できるツールとなりますが、問題</p>
-------------	---

	<p>は導入時のシステムの習熟や書類のデータ化など、一時的な負担は大きく、避けられません。</p> <p>これから先生方は研修を重ねていくとのお話でしたが、準備期間はとも短いため、本来の学びに影響の無いよう、先生方には心にゆとりをもって取り組めるように、配慮しなければいけないと考えます。</p> <p>また、阿波市は子どもたちのために、ICT 機器をいち早く整えていただいておりますが、授業で円滑に ICT 機器を活用するためには、準備等に時間がかからない大型電子黒板付プロジェクターなど、より使い勝手のよい機器の導入も将来的に考えていく必要もあるかと思えます。</p> <p>ほかにも子どもたちのパソコンを使用する習熟度については、家庭の環境や個人の能力の差が出てくるのではないかなど、始まってみないと分からないことが多くありますが、子どもたちが一人一つのパソコンを持ち、使うことを目的とせず、学びを深めていく手段として、ICT 機器を活用している様子を想像すると、GIGA スクール構想の実現への期待が大きく、今後が楽しみです。</p> <p>本日はありがとうございました。</p>
藤井市長	<p>ありがとうございました。教育長さんお願いします。</p>
高田教育長	<p>阿波市では、平成 27 年のパソコンの交換期に、すべての小中学校のパソコンをタブレット端末にするとともに、ICT を活用した授業の推進を図ってまいりました。でも、その当時はパソコン教室に配備しているノートパソコンをタブレットにした状況でございます。各学校に約 40 台程度でした。その同時期に一条小学校は、県の放送・情報教育研究指定を受け、鳴門教育大学や県教育委員会と連携しながら、ICT 機器の活用について研究を進めてまいりました。</p> <p>その研究の成果が、今日の ICT を活用した学びの基礎になっていると思います。</p> <p>しかし、GIGA スクール構想によって、1 人 1 台の端末が整備されるとなると、さらに、ICT 活用を加速化していく必要があると思っております。</p> <p>特に今年度においては、コロナウイルス感染症の影響で臨時休校となったこともあり、パソコンをどう使うかというよりも、オンライン授業へのニーズが高まったように思います。</p> <p>そのような中、すでにオンライン授業の前段階として、リモートによる会議や集会を実施している学校もありました。</p>

また8月には、市教委と各学校をつなぎ、リモートによる校長会を実施しました。私も初めての試みでありましたが、大きなストレスや混乱なく行うことができ、リモートによる学習のイメージができたと思っております。

9月末から10月上旬にかけ、県教委とともに委員の皆様、市教委も学校訪問をしました。ICT機器の活用につきましては、まだまだ学校間、教員間で、温度差がありますが、中には1人1台の端末を使い、教員と子どもたち、子どもたち同士の双方向で学び合う、という授業をしているところもありました。

その授業とは、子どもたちが自分のタブレットに、考え方や解答をしっかりと書き込みます。

その間、教員は手元のタブレットで、子どもたちの考えや解答を確認することができます。そして、理解度を教員は確認します。そして、比較したい考えや解答を選び、前のモニターに映し出します。そこから一斉指導を行うという授業を行っていました。

このように、子どもたちのいろいろな考え方を共有し合う授業というのは、理想的な授業でもありますが、実際には行いにくい現状がありように思います。というのは、かなり時間を要する授業となるからです。

従来の授業であれば、教員がまず黒板に問題を書き、それを子どもたちがノートに写し、そして、考え、回答を書きます。

教員は、その間、机間巡視しながら一人ひとりのノートを見て、指名する子どもを選びます。指名された子どもは前に行って黒板に書きます。

この一連の学習が、ICT機器を活用すると、すべて教員の手元のタブレットで確認することができ、子どもたちも、再度、黒板に書くということもなくなります。効率よく授業を進めることができるのではないかと考えております。

その他にも、聞きたいことがあれば先生しか頼ることができなかったものが、手元にICT機器があれば、探索することができます。さらには、動画やアニメーション、音声の活用などもできます。また、理科や社会では、バーチャルな自然や野外観察、史跡・名所も映像で見ることができ、授業の可能性は大きく広がります。

そこには、文科省が広報している、それぞれの学びを共有したり、個別指導の充実にもつながる授業となります。

これまでの対面授業にない、新たなよさも見えるようになると思われま

	<p>もちろん、読んだり、書かせたり、計算させたりする学習も必要です。これまでの学習と ICT 機器を活用した学習のベストミックスを追求していくことが大切だと思います。</p> <p>ICT 機器を活用することは、今後、授業スタイルの多様化を生み出すと思われます。文部科学省大臣も学習のあり方が劇的に変わるとメッセージを発しています。</p> <p>しかし、一方で、活用していく過程で、様々な課題も見えてくるのでは思っています。</p> <p>まずは、活用するために、「1人1台の端末を活用した学びは、さらに新しい学びを生み出してくれる」ということをしっかりアピールし、普及・広報していくことが大切であると思っています。</p> <p>1人1台端末をフルに使い、いかに教育効果を上げるかを今後ともしっかりと追求してまいりたいと思っています。</p> <p>今後ともご指導よろしく願いいたします。</p>
藤井市長	<p>ありがとうございました。委員の皆様からは、貴重なご意見・ご提言をいただき、ありがとうございました。</p> <p>来年度からは、児童生徒に1人1台のパソコン端末が整備され、今まで以上にパソコン端末を活用した授業を行うことが、可能となります。本市では、これまで積み上げてきた教育実践と、ICTを活用した教育とのベストミックスを図っていくことにより、子どもたちの力を最大限に引き出す学習活動を追求するとともに、生き抜く力を育み、子どもたちの可能性を伸ばす学校教育を進めてまいります。今後とも教育振興に、一層、努力して参りますので、皆様方のご協力・ご理解をいただきますよう、よろしくお願いを申し上げます。</p> <p>それでは、議題2の「その他」に移りたいと思います。何かありましたら、ご意見をいただきたいと思います。</p> <p>それでは、ご意見もないようですので、これで議事を終了させていただきます。</p> <p>長時間にわたり、委員のみなさまには、貴重なご意見・ご提言をいただきまして、誠にありがとうございました。</p> <p>この後の進行は事務局にお願いしたいと思います。</p>
坂東次長	<p>お疲れさまでした。</p> <p>本日の会議につきましては、阿波市総合教育会議運営要綱第6条に、</p>

	<p>『会議の終了後、その議事録を作成し、これを公表するものとする。』とされております。</p> <p>委員のみなさまには議事録ができ次第、ご確認をしていただいたうえで、阿波市ホームページへ掲載し、公表する予定としておりますので、よろしくお願い致します。</p> <p>それでは、これをもちまして、「令和2年度阿波市総合教育会議」を終了いたします。</p> <p>ありがとうございました。</p>
--	--